

～ 肝属川をきれいにしましょう～

BODは川の汚れを示す指標として用いられています

水の汚れを知る上でとても重要な目安として、水の中の有機物の量が挙げられます。有機物としては、例えばプランクトン（微生物）や家庭から出る汚れた水などあります。BODは、生物化学的酸素要求量の略称で、微生物が汚れ（有機物）を食べるために使う酸素量に相当していることより、汚濁の程度を示す指標として一般的に用いられています。この数値が高い状態が続くと川の汚濁が進ん

肝属川の水質調査地点と環境基準（国管理区間）（図-1）



肝属川の生活環境に関わる水質の環境基準について

BODや大腸菌群数など5項目について、目標とすべき水質が定められています。また水域ごとに指定されています。

肝属川ではB類型（BOD 3 mg/L 以下）とA類型（BOD 2 mg/L 以下）に指定されています。

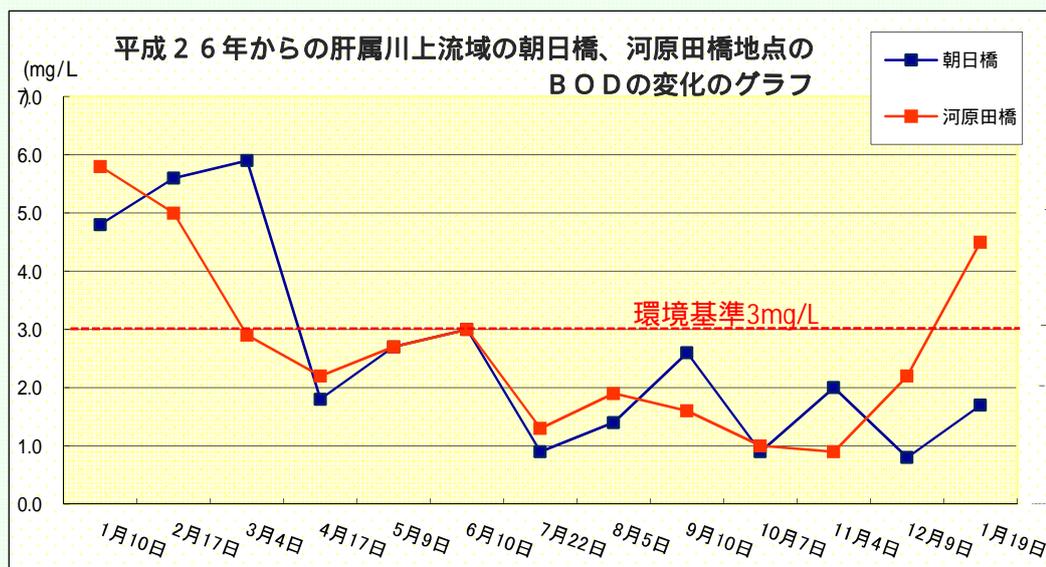
（図-1）参照

BODが高いと、なぜ問題なの？

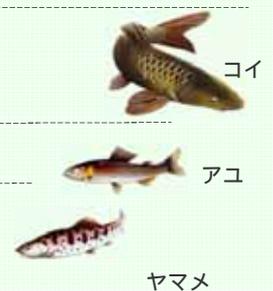
川の生き物も酸素を吸って生きています。私たちが汚れた水（有機物）を川に流すと、それを食べている微生物たちが増えるので、たくさんの酸素が必要になります。すると、水の中の酸素が足りなくなり、魚たちが息ができにくくなり住めなくなります。

また、一般的にA類型（BOD 2 mg/L 以下）ではイワナ、ヤマメなど、B類型（BOD 3 mg/L 以下）ではサケ、アユなど、C類型（BOD 5 mg/L 以下）ではコイ、フナなどの生息に適しているとされており、それ以上では魚の生息には適していないとされています。

肝属川のBODの変化



（水質基準と生息に適するとされる魚の例）



近年の調査では肝属川ではヤマメは確認されていません。

特に、肝属川上流の朝日橋や河原田橋地点の水質は目標とする環境基準前後で推移しており、水の少ない冬場などは環境基準を越える状態が続いています。

今年の1月になって、昨年同様な状況にあります。河川の水量に依らず川の水質が守れるようにすることが大切です。皆さんができる少しずつの努力で肝属川の水質保全に取り組んでいきましょう。

肝属川の水質は、大隅河川国道事務所ホームページに掲載しております。